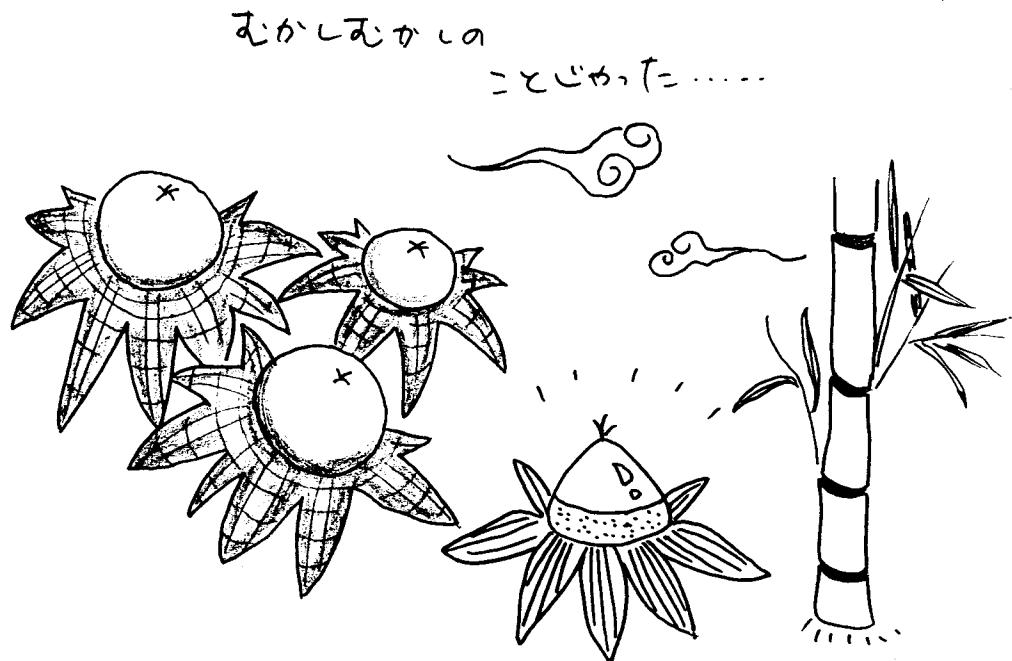


千葉菌類談話会通信

Chiba Mycological Club Bulletin

	ページ
目次：きのこ古譚（三）	2
原色日本菌類図鑑購入の思い出	3
図書紹介シリーズ（二）	4
91・92年度行事報告	5
お知らせ	6
93年度談話会行事予定	7
会計から	7
ありがとうコーナー	8
クロスワード	10



April 1993 No. 4

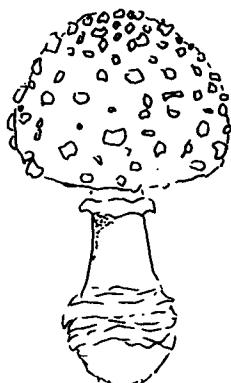
～「山姥の髪の毛」について～

きのこ探しをしていると、毛髪のようなものが見つかり、一瞬何だろうと驚くことがある。落葉や小枝から黒い毛がニヨロニヨロと伸びている様子は、誠に不思議な感じがする。長さが数センチのこともあるが、数メートルに達することもあり、林内一面に網の目のように伸びていることもある。これは根状菌糸束とよばれるもので、きのこの菌糸が束になって発達したものだ。ホウライタケ属のものが普通だが、近縁のシロホウライタケ属、ニセホウライタケ属などもあり、子囊菌のマメザヤタケ属のこともある。但し子実体（きのこ）が無く菌糸束だけの場合が多いので、菌糸束から種名を調べるのは難しい。

勿論、昔の人には奇々怪々なものであったようで、「山姥の髪の毛だろうか？」とか、「いや陰毛だ！」とか思ったようだ。「想山著聞集」には「尾張国春日井郡冰野村の庄屋方の焚き残りの薪の中で、ニワトコに似た細い木に長い女の髪の毛のようなものが幾筋も生えているのをふと見つけた。余りに珍しい物なので代官陣屋に訴え出したところ、名古屋に運ばれたが、如何なる物か評議がつかなかった。本草学に詳しい者もいたけれど、『珍しいものですなあ』と言うだけで、さっぱり知らなかった。（中略）これは文政八年のことである。」とある。中には「品物考證」のように「雲霧草、一名長髪草、キビケ、ヤマウバノカミノケ。深山木石に生える。髪を乱したようで色は黒い。松蘿（サルオガセ）の類である。」と、冷静に判断した人もいたようだ。

また日本各地の神社や寺の宝物の中に「七難の揃毛（そそけ）」と呼ぶ長い髪の毛のようなものがあるが、これもきのこの菌糸束かもしれない。「閑窓瑣談」によると、「上野国甘楽郡新羽村に神流川という川があった。慶長の頃、洪水の時にそこの板の橋にとても怪しげな毛が流れて引っかかっていた。地元の人が見つけて拾い上げてみたところ、毛の長さが三十三尋（約60m）以上あった。色は黒くて艶があって美しかった。しかし何の毛であるか判らなかった。村人達はあまりにも驚いて色々と相談したが、その何ん放っておくのもどうかと思い、その頃有名な易者に占わせたり、湯立ち（占いの方法）したりした。すると「この毛は、

野栗権現が流したもう陰毛である。」と巫女が言ったので、毛をその神社に奉納した。当時は陰毛の宝物として有名だった。また毎年六月十五日の祭礼の時は御輿が出るのだが、後にはその陰毛を箱に入れてこれを恭しく持ち歩くそうである。」だそうで、鰐の頭も信心から、「山姥の髪の毛」ならぬきのこの菌糸束の御利益はあつたのだろうか？今度見つけたら試してみよう。



原色日本菌類図鑑購入の思い出 腰野 文男

昭和32年（1957年）に今関・本郷共著「原色日本菌類図鑑」が保育社から発行されるまでは、日本産キノコの研究に欠くことの出来ない原色図鑑の類は少なくて、昭和の初めに出版された故川村清一博士の名著「日本菌類図説」が唯一貴重なキノコの図鑑であった。図は一つ一つが水彩画で書かれた秀作ではあったが、なにせ掲載されているキノコの数が少なくて邦産キノコの一部にすぎず、キノコを同定するにあたって不明な種類ばかり多くなるのも当時やむを得ない事であった。

そういうしているうち、1954～1955年にかけて同博士の畢生の名著「日本菌類図鑑8巻」が風間書房から発行されたと聞き、欲しくたまらず何とか手に入れたいものと機会をねらっていた様に思う。日誌につけ忘れてしまつたので正確には何月何日だったか定かではないが、昭和49年（1974）のある日曜日の事であった。東京大学の正門前にあるI書店へ植物の文献を漁りに出かけていったが、ふと、同店の古書目録の中に川村博士の「日本菌類図鑑8巻」があったのを思い出した。幸い、その日はふところ具合もよかつたので居合わせた店員に在庫があるかどうか聞いてみた。ところが、店員の返事はそっけなくて、「今、そう云う本は出ないので手に入りませんよ。」と云うのである。無いと云われるとよけい欲しくなるのが人の常と云うが、その時はまだ若かったので、がむしゃらのせいもあり出版社へ行けば何とかなるのではないかと一途に考えてしまった。幸い、出版社の住所は手帳に書き止めてあったし、東京案内の地図も持っていたので神田にある風間書房を尋ねて行く事にした。ところが、神田と云っても広くて田舎者にはなかなか出版社がわからない。ようやくの事で尋ねあてたところ日曜日は休みで重いシャッターががっしりとおりていた。がっかりしてすっかり気落しあきらめて帰ろうとしたが、ひょっと右側の家を見たところ門のところに‘風間’と云う表札がかかっているではないか。とっさにこれは社長宅に違いないと判断したのである。日曜日に手土産一つ持たず社長宅を訪問する非礼なことをしてよいのかしばらく迷ったが、菌類図鑑欲しさの一念もあってままよと思ひ呼び鈴を押してしまった。しばらくすると、家の中から社長夫人の様な感じの物静かなご夫人が出て来て手をつき、「どなた様でしょうか。」とおっしゃった。そこで、突然お伺いした失礼をおわびし、キノコの研究上どうしても菌類図鑑が欲しいので上京したという経緯を熱心に説明し、ぜひゆずって欲しいと切願した。幸い、物静かで親切な性格のお方であったせいか、私の云う事に耳をかたむけてくれ、「それでは、今在庫があるかどうか探ってきてあげましょう。」と云われたのでほっと胸をなでおろした。そこまではよかつたが、しばらく待っているとそこへ和服姿の大柄なご主人があらわれた。多分、日曜日の昼の事で御酒を召し上っていたのであろう。いきなり、「今日は日曜日で会社が休みなのがわからないのか。」とどなられてしまった。仕方がないので失礼を詫びて来意を熱心に説明したがそんな話しには耳もかさない。おこった様な顔をして立っていたが、そのうち政界や学会の大物との交流の話しが始まり、創設当時の苦労話に及んで自分は印旛郡の出身だと云う話になつた。そこで、当時、私は佐倉に勤務していたので印旛郡は隣の郡であるから思

い切って佐倉の話しをしてみた。やはり、知っている地域のせいか話しが合い、いつしか気分もなごんとしばらく話し込んでから奥へ入っていかれた。やがて、先程のご夫人が菌類図鑑を持って出てこられ、「今のうちに持つていってください。第8巻だけは来年の秋に再発行の予定です。」と云はれ、別に悪いことをしているわけでもないのにそそくさと代金を支払って何度も頭をさげて礼を云い、戸外に出てほっと一息ついた。

こうして待望の菌類図鑑7巻を手に入れる事が出来た。その後、第8巻を購入したので今私の書斎には全8巻の菌類図鑑が宝物の様におさまっている。こういういきさつがあったせいか、今だにこの図鑑を開くたびにご主人にどなられた事やお世話になったあの夫婦の温顔が思い出されてならない。この図鑑も今はもう古本屋に出ていても、とても高価で手に入らない本になってしまったし、キノコの研究もどんどんすんで分類体系も変わっていき、キノコの図鑑類も次から次へと出版されている。この話も図鑑のなかった時代の遠い思い出となってしまった。

キノコに関する図書紹介シリーズ（二） 腰野 文男

～キノコ料理に関する本～

前回の紹介シリーズ（一）で図鑑類を紹介しましたので、今回はキノコ料理に関する本と図鑑類の追加分も含めて紹介いたします。

1. 「きのこ料理」小宮山勝司著 家の光協会 ¥1100

菅平高原にあるペンションきのこのご主人が宿泊客に好評のあった料理の極意を紹介したものでさすがに楽しく読める。家庭でも出来そうな料理ばかりで解説も親切。ぜひ、1冊は備えたい。

2. 「採集から料理法まで きのこ」小宮山勝司著 池田書店 ¥1400

3. 「きのこ クッキング」晶文社出版編 晶文社 ¥2250

最近は、写真入りで何から何までいたれりつくせりの本が多い。この本もキノコ狩りの上達法に始まり、郷土料理店どもんの料理の紹介。巻末には食用きのこの図鑑までついている。

4. 「最新 食べられるきのこ百科」主婦と生活社 ¥2200

この本も写真入りのいたれりつくせりの本。キノコの種類ごとに料理のコツまで解説。巻末には全国きのこ採集地ガイドまである。

5. 「健康を食べよう きのこ」文化出版局編 文化出版局 ¥1500

健康を主体としたキノコ料理の本。やせたい人、コレステロールを下げるキノコ料理など思いあたる人は本書を読んで試してはいかが。

6. 「健康食 きのこ」原洋一・菅原龍幸・松本伸子共著 農村漁村文化協会 ¥1030

前編ではなぜからだによいかなど基本に触れ、後編では家庭で出来るきのこ料理を具体例で解説しているが材料は栽培物のキノコに限定されているので野生キノコファンには△印（参考程度）。

7. 「おいしきのこ100選」高木国保 廣済堂出版 大判¥2400

100種類のおいしきのこについてその特徴や料理を写真入りで解説してあるが、実際にキノコ料理をつくるとなるともっと具体的な詳しい解説が欲しいかも。

8. 「きのこ100珍NOW」柴田書店 ¥1640

9. 「素材料理 きのこ料理76種」学習研究社 ¥580

10. 「和洋中 きのこ料理」婦人画報社 ¥1009

この3冊の本は洋風、和風、中国風と本格的なキノコ料理の本。もちろん、材料は栽培物のキノコが主体。したがって野生キノコファンには△印。

☆図鑑類追加☆

「きのこ事典」 秋山武一解説、青原光二写真 栃の葉書房 ¥2000

「きのこハンドブック」 高木国保・伊沢正名著 家の光協会 ¥780

「ポケットきのこ」 清水大典・伊沢正名著 家の光協会 ¥1000

236種のキノコ登載ポケット版であるが写真は解明、コンパクトで入門者の携帯によい。

「フィールド版 キノコの本」 松川仁著 丸善 ¥1700

キノコ図鑑の大部分がカラー写真であるが、本著は手書きの写生図入りの写真で胞子の拡大図までそえてある。索引も五十音順と分類順があり便利。

「きのこ入門」 内田正宏・川嶋健市著 主婦と生活社 ¥1200

鮮明な写真入り解説の入門図鑑。見分け方、味と料理の欄も入門者にはためになる。登載したキノコの数が少ないので省略したと思うがアイウエオ順だけでも索引があった方が便利。

91・92年度行事報告

1 採集会

91年9月28日（土）房総風土記の丘／指導：本郷次雄／採集75種

本郷先生を迎えての初の採集会。

92年8月8日（土曜）市原市民の森／参加者24名／採集26種

日照り続きのため、キノコの数は少なかった。

92年10月2日（金）清和県民の森／参加者29名／指導：本郷次雄／採集24種

本郷先生を迎えての採集会であったが、あいにくの雨模様。最初にササクレヒトヨタケにお目にかかっただけで、キノコの姿は非常に少なかった。

92年11月7日（土）清和県民の森／参加者20名／指導：内田正宏、川嶋健市、服部力／採集81種

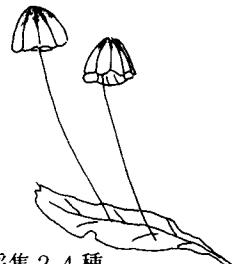
台風が近づいた大雨にもかかわらず、20名が参加。指導には図鑑「日本のきのこ」の料理担当の内田さん、「きのこ探検隊隊長」の川嶋さん、硬いキノコはおまかせの服部さんがたつてくださいました。なお、上記4回分の採集品のリストは今回の会報に同封しました。

2 第1回スライド大会報告

92年11月28日（土）、予告をしながらなかなか実現しなかった第1回スライド大会がようやく行われました。予想を大きく上回る48名が参加し、博物館の会議室はいっぱい博物館の職員も驚いていました。今回は9名の方がご自慢のスライドを上映してくださいましたが、これまた驚くほどどれもが秀作揃いで、会場はためいきとどよめきに包まれたまたたく間の楽しい3時間でした。千葉県のキノコ図鑑の出来が楽しみです。また、スライドのあとは千葉駅の近くで懇親会を行いました

スライド上映者（敬省略）：

池田和加男（約10年間に福島県・所沢・多摩・長野県・富士山等で撮られたガマノカツラケ、シカヤマケチ、キヌボソク等の珍菌・美菌を数十点）、大作晃一（キノコへの愛情がひしひしと伝わる写真）、菊地栄子（多摩丘陵で見られるキノコ。料理にも工夫）、川下いずみ（長野県峰の原高原で撮った6-7m程もあるベニテングタケの菌輪、野生のエノキ等）、須賀良行（中国のキノコ事情）、伊藤隆弘（高尾山付近のキノコ）、小西弘倫（風土記の丘と酒々井町のキノコ）、腰野文男（博物館の生態園で見られるキノコの四季）、吹春俊光（92年9月に沖縄県八重山で採集した珍菌等）



第1回総会、談話会講座のお知らせ

発足して3年、会員も現在は100名を越え、会らしくなってきました。第1回の総会を以下の通り開きたいと思います。

日 時：6月19日（土） 10:00～10:30

場 所：千葉県立中央博物館会議室

なお、あわせて講座「キノコ写真の撮り方」も行います。講座に参加ご希望の方は普通の葉書で5月31日までに事務局へお申し込みください。（総会のみに出席の場合は申し込み不要。なお、講座は申し込み多数の場合は抽選となる場合もありますので、あらかじめご容赦下さい）

内 容：伊沢風写真の撮り方をお教えします

講 師：伊沢正名

時 間：10:30～12:00（講義）

13:00～15:00（野外実習）

*雨天の場合は室内での講座となります。

*昼食は会議室でとることが出来ます。

*カメラをお持ちで無い方も参加できます。

第6回採集会のお知らせ

日 時：7月24日（土）

10:00～15:00

場 所：泉自然公園

千葉市若葉区野呂町108

TEL043-228-0080

集 合：10時、駐車場奥の大きな木の下

持 物：昼食、採集道具他

担 当：阿部代始子（TEL043-236-0498）

石田いし子（TEI 043-262-9298）

*小雨決行（当日は9:00AM、石田まで）

参加希望者は6月30日迄に談話会事務局へふつうの葉書でお申し込みください。当日は、傷害保健には加入していませんので、各自ケガ、事故等のないようにご注意下さい。

交 通：JR千葉駅または京成電鉄千葉中央駅より、ともにバス停7番線成東行きか中野操車場行きで「泉自然公園」下車、徒歩10分。

*バスは1時間に4本程度、約40分、480円

※草むらを歩きますのでまむしには充分気をつけてください。



マイカー利用 国道126号線を東金方面へ野呂町まで、泉自然公園入口（案内標識）を右折し又は、東金有料道路、高田、誉田インターで下り、左折して1km程度です。

93年度談話会行事予定

- 1) 総会 *別記参照
- 2) 談話会講座 *別記参照／申込5月31日迄
- 3) 採集会
 - 第6回 7月24日(土) 泉自然公園 *別記参照／申込6月30日迄
 - 第7回 10月23日(土) 房総風土記の丘か我孫子周辺を予定(講師本郷次雄)
 - 第8回 11月13日(土) 船橋県民の森
- 4) スライド大会と懇親会
 - 第2回 12月 4日(土) 場所未定

会計から

1 90、91年度会計報告(90.4.1~92.3.31)

収入	支出
会費 4,040	通信費 6,540
賛助会費 2,500	
合計 6,540	合計 6,540

2 92年度会計報告(92.4.1~93.3.31)

収入	支出
会費 83,000	通信費 21,856
雑収入 6,672	講師料 10,000
	雑費 61
	次年度繰越 57,755
合計 89,672	合計 89,672

*会費内訳／92年度 57,000
 93年度 17,000
 94年度以降 9,000 計83,000

3 お知らせ

1) 会費についての決定事項

93年4月3日に幹事会を開き以下の事が決まりました。

(1) 93年度会費は1000円とする。(中学生以下は半額の500円)

(2) 家族で入会の場合は代表者1名分の会費の納入でよい。

※現在、通信が2通郵送されているご家族がありましたら、事務局までご連絡下さい。

(3) 92年度からかぞえて(92年4月1日~)、2年間にわたり会費の納入及び連絡のない場合は退会とみなす。

(4) 会の催し物などで必要なときは、参加費を徴収する。

会費を値上げした方が良いのではないかという声もありましたが、今のところはお金が足らないということはありませんので、会費は現状ままで、別途参加費とい

う形で微収したいと思います。

2) 会費未納の方へ

92年度会費が未納の方は、封筒宛名のラベルに「☆92年」の印がありますので以下の方法で納入お願ひします。

3) 会費納入方法

原則として郵便振込とする。(振替口座: 東京0-550400「千葉菌類談話会」)

※何年度分の会費か必ず明記すること

4) 入会方法

上記の郵便振込口座へ振り込むと自動的に入会となります。氏名、生年、月日、自宅住所・職場の名称、住所、電話番号を必ず記入のこと。

中央博物館「菌類分類学講座」

1. 開催日時・講座名

第1回93年9月23日(木) 「ケトミウム属の分類と生態」 講師: 堀江義一(中央博物館)

第2回93年10月24日(日) 「ハラタケ目の分類」 講師: 本郷次雄(滋賀大学名誉教授)

第3回93年11月21日(日) 「キノコの一生とその生理」 講師: 鈴木彰(千葉大学助教授)

第4回93年12月19日(日) 未定

第5回94年1月30日(日) 「地衣類」 講師: 原田浩(中央博物館)

第6回94年2月20日(日) 「イグチ類入門」 講師: 吹春俊光(中央博物館)

*いずれも午前10時~午後3時まで。定員16名。参加費無料。

2. 場所: 千葉県立中央博物館研修室

3. 申し込み方法: 参加ご希望の方は各講座開催日の1ヶ月前から2週間前までに、下記宛先まで往復葉書で、年齢・住所・電話番号を明記の上お申し込み下さい。申し込み多数の場合は抽選となります。なお、各講座は独立した講座となっており、それぞれ御申込頂けます。また連続して参加ご希望の方はその旨明記して一枚の往復ハガキでお申込み下さい。なお第5回「地衣類」は担当が異なり連続申込はできません。別ハガキでお申込下さい。

4. 申し込み先: 千葉県立中央博物館植物研究科、第○回菌類講座「・・・について」

〒260 千葉市中央区青葉町955-2番地 電話: 043-265-3921(植物科)

ありがとうございましたのコーナー

~寄贈本・雑誌あれこれ~

事務局に書籍、雑誌の寄贈、各会の会報誌などが届いています。

書籍・雑誌 「日本の毒キノコ150種」 小山昇平著著 ほおづき書籍 ¥2300

「フィールド版キノコの本」 松川仁著 丸善 ¥1700

「夢自然きのこ1」 山溪谷社 ¥1200

「biosphere No.1, No.2」 農村文化社 ¥500

会報誌 「紅天狗 第1号」 / 信州きのこの会、

「いっぽん 第6号」 / 埼玉キノコ同好会

「関西菌類談話会会報 No.10、No.12、No.13」 / 関西菌類談話会

「野草をたずねて 第10号」 / 佐倉野草会

キノコクロスワード

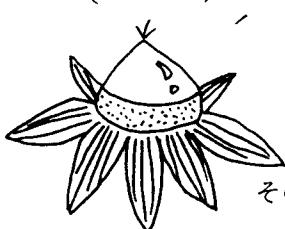
前号の答え：動物の名前のついたキノコ

ム		キ	
ジ	ス	ツ	ポンタケ
ナ	ネ		シ
タ	ヌ	キ	ノチヤブクロ
ケ	チ	マ	キ
ア	カ	ヤマドリ	ク
リ	ブ	リ	ラ
タ	ク	モタケ	ゲ
ケ	ロ	ケ	

(小沼良子)



*****表紙によせて***** 北川 公子*****



ツチグリ

むかしむかしのことでした

年に一度神様たちのげいじゅつ作品大会がありました
ある神様は考えました

----花であって花でなく、星であって星でなく、
鳥でなくても空を飛べて、足があるのに動かないもの----
そのとき、さあと風が吹いてささの葉がひらひら舞ってきました
「わたしを使って下さいな」

くりのみもころころころがってきました
「わたしを使って下さいな」

神様はささの葉をていねいにならべ、まんなかにちょこんとくりのみをのせました
----花でなくて花のようで、星でなくて星のようで、

くりのみをぽんぽんたたくと胞子が飛んで鳥でないのに空を飛び、
菌糸の足でしっかりととかたい地面をふんばっています----

神様はたいへん満足してこの作品を“つちぐり”と名付けましたとさ

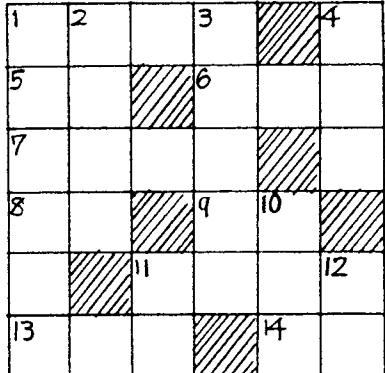
編集後記

*年に3回は発行したいと思いつつ、昨年度は1回の発行に終ってしまい、第4号は事務局からのお知らせがだいぶ多くなってしまいました。もっと皆様からの原稿やイラストで作って行きたいと思いますので、どしどしキノコに関することを送ってください。
*今回は会員の田宮克哉さんがキノコクロスワードを作成してくださいました。聞くところによると田宮さんはパズル作りの名人のようではいらっしゃいます。この「あぶり出しキノコ・パズル」も(2)、(3)と続きますのでどうぞお楽しみに。また、我こそはと思う方はパズル作りに挑戦してみてください。
*昨年は第1回のスライド大会が催され、今年度は初の講座が行われます。第1回の講師はキノコ写真では右にいる人のいないあの伊沢正名さんです。ご期待下さい。
*写真技術をアップさせ、キノコ採集にせっせと行き、スライド大会では自慢をし、そして、みんなの写真で千葉県キノコ図鑑！てな具合にいくよう会の活動を充実させていきたいと思います。会員の皆様のご指導、お力添えの程、よろしくお願ひいたします。(良)

—解けばその名が浮き上がる—

あぶり出しキノコ・ハズル (1)

田宮克哉



タテのカギ

1. アンドンタケの仲間。
2. 冬虫夏草の1種。
3. 線を引くためのものさし。
4. マッタケに近縁。
10. 橋のない川や海峡にある。
11. ○○とムチ。
12. ○○の皮がはがれる。

ヨコのカギ

1. ムスカリーン性の毒成分を含むキノコ。日本には数十種あるとか。
5. 大量消費が森林破壊につながる。再生利用を。
6. ○○線とは放射線のひとつ。
7. 名刺からこれがなくなると、町の長老。
8. 墓石を入れる容器。
9. 水の少い川。
11. 暖地の海岸に生えるセリの仲間。
13. つぎ馬屋おえんのせりふ「○○○つけさせさせていただきます。」
14. 暴風雨。

問い合わせ：「1. のナナメは何と出る？」

千葉菌類談話会通信 N o. 4 1993年4月28印刷、発行

会長：腰野文男

事務局：千葉県立中央博物館 植物科 吹春 気付 「千葉菌類談話会」

千葉市中央区青葉町955-2

電話：043-265-3921 Fax：043-266-2481

郵便振替口座：東京0-550400 「千葉菌類談話会」